

順接のがが

梗概

サブカル系男子の順（18）は小説家を志している。

順は小説仲間の学（18）にコンクールへ応募する小説を見せ、学からお墨付きをもらう。

順の小説はコンクール予選を突破し、受賞まであと一歩のところまでくる。

順が受賞への期待を膨らませる一方、学の抑えられていた感情が表出する。

学も密かに順と同じコンクールに挑戦していたが、一次落ちしていたのだった。

嫉妬心から学は順の小説の才能を否定し、二人の仲は険悪になる。

しかし事実を知った順は学の気持ちを理解し、
二人は関係を取り戻す。

その後、順はコンクールで受賞する。そして
プロとなり、五臓六腑の活躍を遂げる。

登場人物

順 (18) 高校生

学 (18) 順の友達

のん (18) 順の恋人

ゆみ (18) 学の元カノ

友人

審査員

※本作のストーリーは静止画と音声のみで進行することとする

○テロップ画面

以下のテロップ。

「この物語は順接の「が」をテーマにしているが、10分ほどで読めます」

○テロップ画面

以下のテロップ。

「じゅん・せつ【順接】

「名」(スル)二つの文または句の接続のしかたで、前件が後件の順当な原因・理由などになっているもの。「だから」、「それで」などの接続助詞がつくもの」

○高校・教室（休み時間）

席で文庫本を読む順（18）。

本のタイトルは「ライ麦畑で捕まえて」。

廊下から教室をのぞき込み、順に熱い視

線を送る女たち。

順の涼しげな顔のアップ。

ナレーション「彼が主人公だが、女子にモテる」

○同・校舎裏

向かい合う順とのん（18）。

のんの顔のアップ。

緊張しているのん。

のんの声「君のことが好きなのだが、付き合
ってほしい」

ポーカーフェイスの順。

順の声「俺も君が好きだが、黒目がちな瞳が
特に好きだ」

○同・教室（数日後・昼休み）

順とのん、机をくっつけて弁当を食べて
いる。

弁当を食べる順。

うっとりとして順を見つめるのん。

のんの声「今度の彼氏はサブカル系男子だが、
小説家を目指しているらしい」

○順の家・部屋（夜）

パソコンの前に座っている順。

○パソコン画面

原稿用紙の表紙に以下のタイトル。

「我が輩は猫だが、名前はまだない」

○高校・教室（数日後）

順と学（18）、座っている。

紐で綴じられた原稿を読んでいる学。

原稿を閉じる学。

学、順に原稿を返す。

順、原稿を受け取る。

順の声「コンクールに出す原稿を友人に読ん
でもらったが、絶賛された」

物知り顔の学。

学の声「キャラクターは書けているが、スト

ーリーも書けている」

○のんの部屋（夕）

向かい合う順とのん。

原稿を読むのん。

順の声「彼女にも読んでもらったが、読んで
いるときの顔が愛しかった」

順を見るのん。

のんの声「読んだが、幸せな気持ち」

○道（数日後）

順とのん、並んで歩いている。

その背後に学。

順の後ろ姿を冷たく見つめる学。

学の声「俺と奴は友達だが、奴と出会ったの
は小一の時だった」

○小学校・教室（回想）

黒板に「班長決め」の文字。

威勢よく手を挙げる少年時代の順と学。

学の声「班長になりたかったが、先生がジャンケンで決めろといった」

×

×

×

ジャンケンをする順と学。

順はパーで、学がグー。

学の声「こうして班長は決まったが、この時

から俺は常に奴の二番手だった」

勝って喜ぶ順。

○道（戻って）

順を睨みつける学の顔のアップ。

○高校・校門（二ヶ月後・放課後）

帰宅する生徒ら。

順の声「二ヶ月後のことだが、コンクールの一次結果が発表された」

○本屋・店内

順とのん、本を立ち読みしている。

順の声「本屋で立ち読みしたが、通過者に自分の名前が載っていた」

のん、喜ぶ。

順、満更でもない。

×

×

×

学、本を立ち読みしている。

学の声「奴には内緒で俺も応募したのだが……」
唇を噛みしめる学。

○高校・校門（二ヶ月後・放課後）

帰宅する生徒ら。

順の声「二ヶ月後のことだが、コンクールの二次結果が発表された」

○本屋・店内

順とのん、立ち読みしている。

順の声「本屋で立ち読みしたが、通過者に自

分の名前が載っていた」

のん、喜ぶ。

順、満更でもない。

○高校・校門（二ヶ月後・放課後）

帰宅する生徒ら。

順の声「二ヶ月後のことだが、コンクールの
三次結果が発表された」

○本屋・店内

順とのん、立ち読みしている。

順の声「本屋で立ち読みしたが、通過者に自
分の名前が載っていた」

のん、喜ぶ。

順、満更でもない。

×

×

×

学、本を立ち読みしている。

学の声「奴の落選をひたすら願ったのだが…」

唇を噛みしめる順。

○高校・教室（翌日）

向かい合っている順とのん。

順の顔のアップ。

順の声「自信はあったのだが、案の定最終選考まで残った」

のんの顔のアップ。

のんの声「絶対受賞できると思うのだが、受賞式には一緒にいっていい？」

笑いあう二人。

二人を遠くから見ている学。

体を震わす学。

学の声「憎悪に満ちている」友達として付き合ってやってきたが、しかし！　しかしだ！　お前とは絶交だッ！」

○テロップ画面

以下のテロップ。

「この物語は逆接の「が」をテーマにしてい

るが、テーマ性は皆無だ」

○テロップ画面

以下のテロップ。

「ぎゃく・せつ【逆接】

二つの文または句の接続で、上に述べたこと
とから予想される以外の結果が示される
関係を、あえて結びつける場合をいう。「し
かし」、「なのに」などの接続助詞がつくも
の」

○高校・教室

席で文庫本を読む学。

本のタイトルは「現代の英雄」。

隣の席でスマホをいじる女子たち。

学の暑苦しい顔のアップ。

ナレーション「彼が主人公だが、主人公タイ
プではない」

○同・校舎裏

学とゆみ（18）の姿。

ゆみの顔のアップ。

ゆみの声「君のことが好きなのだが、これ以

上一緒にいと嫌いになりそうだ」

学の顔のアップ。

学の声「俺も君が好きだが、君のそういうハ

ッキリとモノをいうところが嫌いだ」

○同・教室（数日後）

席で本を読む学。

学を冷めた目で見るとゆみ。

ゆみの声「元彼はサブカル系男子だが、ア

トの才能は皆無だ」

○学の家・部屋

パソコンの前に座っている学。

○パソコン画面

原稿用紙の表紙に以下のタイトル。

「我が輩は猫だが、しゃべれる」

○マクドナルド・店内（数日後）

席に座っている学と友人。

紐で綴じられた原稿を読んでいる友人。

原稿を閉じる友人。

友人、学に原稿を返す。

学、原稿を受け取る。

男の声「コンクールに出す原稿を友人に読んでもらったが、評価はさっぱりだった」

物知り顔の友人。

友人の声「キャラクターは書けているが、ス

トーリーが書けていない」

○ゆみの部屋（夕）

原稿を読むゆみ。

男の声「元カノにも読んでもらったが、頼んだことを後悔した」

原稿を放り投げるゆみ。

スマホで文字を打つゆみ。

LINE画面に小説の感想が打たれている。

ゆみの声「読んだが、理解できなかった」

○道（数日後・放課後）

歩いている学。

正面に順とゆみの後ろ姿。

順を睨みつける学。

振り返る順。

慌てて顔を逸らす学。

学を見る順。

順の声「俺と奴は友達だが、別に記憶に残るような思い出はない」

○高校・校門（二ヶ月後・放課後）

帰宅する生徒ら。

学の声「二ヶ月後のことだが、その二ヶ月が俺には一年に感じた」

○本屋・店内

立ち読みする学。

学の声「本屋で立ち読みしたが、本当は家で

じっくり見たかった」

食い入るように本を見る学。

学の声「奴には内緒で俺も応募したのだが、

俺の名前はなかった」

唇を噛みしめる順。

○高校・校門（四ヶ月後・放課後）

帰宅する生徒ら。

学の声「四ヶ月後のことだが、その四ヶ月が

俺には二年に感じた」

○本屋・店内

立ち読みする学。

学の声「本屋で立ち読みしたが、本当は家で

じっくり見たかった」

食い入るように本を見る学。

学の声「奴の落選をひたすら願ったのだが、

奴は最終審査に残っていた」

唇を噛みしめる順。

○高校・教室（翌日）

向かい合う順とのん。

順の声「自信はあったのだが、ここまでくるとは思わなかった」

のんの声「絶対受賞できると思うのだが、喜ぶのは受賞してからにしよう」

遠くから二人を見つめる学。

学、憎しみに満ちた目。

学、二人に近づく。

ふてぶてしい学の顔。

学の声「よく健闘したが、君は受賞できない」

順、学を見る。

驚いた順の顔。

順の声「急にそんなことをいわれて驚いたが、意外に冷静な自分がいる」

学のふてぶてしい顔。

学の声「この前はお世辞で褒めたが、君の書いた本はつまらない」

順のポーカーフェイス。

順の声「君の意見は尊重するが、賛同はでき

ない」

学のふてぶてしい顔。

学の声「賛同するかどうかは自由だが、私は
つまらないといっている」

順のポーカーフェイス。

順の声「売られた喧嘩は買う主義だが、君と
喧嘩をする気にはなれない」

学のふてぶてしい顔。

学の声「私は喧嘩を希望するが、君が逃げる
のならばかたない」

微かに苛立ちを浮かべる順。

声「部外者だが、この場を調停したい」

二人、振り向く。

ゆみ、現れる。

ゆみ「元彼もコンクールに応募していたが、
あっけなく一次で落ちた」

ゆみを睨みつける学。

学の声「調停は結構だが、部外者は黙って
くれ」

構わず話を続けるゆみ。

ゆみの声「元彼は平静を装ってあなたと接していたが、内心ではどす黒い嫉妬が渦巻いていた」

かっとなる学。

学の声「やめろ！ と叫びたいが、堪えてやる」

学を見つめる順。

順の声「信じたくない話だが、信憑性はある」

突然、笑い出す学。

困惑する一同。

以下、フラッシュバック。

学、遠くから順とのんを見ている。

学の声「憎悪に満ちている」友達として付き

合ってやってきたが、しかしだ！ しか

し！ お前とは絶交だッ！」

フラッシュバック、おわり。

笑い続ける学。

学に近づく順。

学を殴る順。

殴られる学の顔のアップ。

床にうづくまる学。

ポーカーフェイスの順。

うづくまって体を震わす学。

学を見下ろす順。

号泣している学。

学の様子に気づいた一同。

そっと学に近寄る順。

学に手を差しのべる順。

順の声「友達として付き合い合ってたってきたが、

それゆえ、これからも君との関係が続けた

い」

微かに微笑む順。

涙に濡れた顔で順を見上げる学。

○同・校門（二カ月後・放課後）

帰宅する生徒らの姿。

順の声「二ヶ月後のことだが、最終選考の結

果が発表された」

○本屋・店内

立ち読みをする順とのん。

順の声「立ち読みしたが、受賞していた」

二人が見ているページに以下の審査評。

審査員の声「満場一致だったが、私も彼に入れた」

○出版社・外観（一週間後）

順の声「一週間後のことだが、授賞式が開かれた」

○同・授賞式会場

たくさんの報道陣。

カメラの前に立っているスーツ姿の順。

遠くで順を見つめている学とのん。

誇らしげに賞状を手をしている順。

ナレーション「その後彼はプロになるが、その活躍といったら凄まじいものがあった」

○テロップ

ナレーション「この物語には意味もオチもな
いが、いかがだったろうか」

(おわり)